

地域包括支援センター運営協議会 議事録

会長あいさつ

議 事

- 1 令和5年度 地域包括支援センター事業報告について
(事務局) 資料1を報告。

(委 員)

フレイル対策はあるのか。体力低下の防止は重要な取組で、地域包括支援センター（以下「包括」）で対応するもの。後期高齢者健診で対象者の拾い上げをし、フレイル評価ができ、一体化の事業ができる。昨年度も提案した。第9期高齢者保健福祉計画であげてはどうか。

(事務局)

居場所や宝生苑、常磐苑、オレンジルームで体操を実施。対象者に案内・同行し、支援を行っている。

(委 員)

資料1の地域包括支援センター事業実績の7認知症予防対策支援事業「認知症家族交流会」で、常磐苑が0となっている。今後の実施はあるのか。何故、常磐苑がなくなったのか。

(事務局)

常磐苑で使用していた部屋は、体操の事業を行っており、部屋の確保が難しかった。駅前にミライロができたことから、市民にとっては行きやすい場所でもあり、ミライロで実施をしている。

- 2 令和5年度 市町村と地域包括支援センターの評価指標について
(事務局) 資料2を報告。

(委 員)

圏域ごとに、地域ケア会議の内容が異なる。地域ケア会議の内容を公表していないが、介護事業所は市内全域を対象に支援している。全圏域の内容を周知して欲しい。

(事務局)

周知できるようにする。

3 介護保険の主治医意見書について (事務局)

先日、「主治医意見書」について、申請者やご家族が主治医に、介護保険の申請状況や認定内容などを説明できない場合もあり、包括で対応できることはないかとの意見をいただき、市で主治医意見書・連絡票（案）を作成した。包括のケアマネが関わっている方や包括が代行申請をした方について、主治医意見書と一緒に持参していただければと考える。

(委 員)
了承。

4 その他 (委 員)

自身の医院に、80代で足腰が痛く、杖を使う患者が受診。患者によると、包括に相談に行ったが、要介護要支援でないとサポートできないと言われたと受け取った様子。過去にも、同じような話を聞いた。割と元気な人が相談に行くと要支援にもあたらないとわかるが、その患者は杖をついていた。介護保険を申請してもらって、審査会で判断してもらいたい。

(事務局)

相談に来られた場合、本人の困り事を聞き取り、必要に応じて介護保険の申請の希望を確認し、サービスを案内する。介護保険サービスを必要とされていない場合は、地域のサービスを紹介する。サポートできないと言っていないが、説明時の伝え方を考えたい。

(委 員)

ポリファーマシーへの対応について。色々な病院受診で、薬が重複すること。薬手帳の持参を忘れることもある。薬局やケアマネの気づきもあるだろう。多職種連携で考えて欲しい。

(事務局)

先日のケアマネ等研修で、薬剤師を講師に迎えて学んだ。薬剤師と連携し、医師に意向を伝える事を、現場も理解した。国保医療課と情報を共有している。